

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 大学院生物資源学研究科
氏 名 吉松隆夫

活動テーマ	志摩域における水産増養殖の振興に関わる研究および教育での連携
実施期間	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容 アワビ類やイセエビの増殖に供せられる種苗の生産用の微細藻の性能評価試験, 気候変動が志摩地域の漁業を特色つける海女漁の対象磯根資源の再生産に与える影響に関する調査, また近年水族館の展示物として人気が高まっており磯根資源の増殖に影響を与えうるクラゲ類の繁殖生態と海洋環境の変化の影響に関する研究等。</p> <p>(2) 地域への貢献 (地域の発展・活性化への寄与, 広がり) 三重県内で唯一の水産系職業専門高等学校である三重県立水産高等学校との連携であり, 地域の発展及び活性化に大いに資するものである。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況 三重県立水産高等学校と共同で種々の実験や調査を実施するとともに, 事業成果の内容について論文を執筆し, 平成 30 年度三重大学生物資源学部紀要に投稿, 出版に至った (論文題目: 養生アコヤガイの成長に対する微細藻類の給餌効果)。また水産高等学校及び鳥羽市の浦村アサリ研究会と連携して, アサリの増殖に効果が高いとされている蛎殻から製造されたケアシエルの効果について現地での調査を中心に検討した (写真)。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり 三重大学は現在, 様々な面で地方創生のための大学機能を強化している最中である。本共同研究は, 三重大学の地域における高大連携事業の一つとして重要な取り組みであるだけでなく, 志摩地域の水産業の発展と水産科学分野の発展に大いに資する内容となっている。</p> <p>(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等) 平成 30 年 8 月 21 日に三重県立水産高等学校実習棟において, 三重大学生物資源学部水圏生物生産学講座 3, 4 年生および大学院所属留学生 26 名を対象に浅海増殖学実習を実施し, 真珠の品質評価に関する講義と実習を水産高等学校の筒井 努教諭他が担当した。</p>



(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

1. 養生アコヤガイの成長に対する微細藻類の給餌効果

筒井 努, 小村雄作, 山本慧史, 吉松隆夫

三重大学大学院生物資源学研究科紀要, 第44号1-5, 2018

真珠養殖用に挿核施術されたアコヤガイに対し, 陸上飼育槽内で餌料用微細藻類を給餌して飼育し, 天然海域で養生される個体との体重増加率, 体内の栄養状態について比較を行った。15日間の養生期間後に, 各試験区の体重増加率を測定したところ, 陸上水槽内で *Rhodomonas* sp. を与えた試験区で最も高い体重増加率が得られた。

2. アサリ増殖のための人工基質「ケアシェル」の効果

関 春花

三重大学生物資源学部生物圏生命科学科平成30年度卒業論文

本研究では, アサリ養殖生産の拡大を目指し, 三重県鳥羽市浦村で開発されたカキ殻加工固形物(商品名:ケアシェル)と砂利を封入した網袋を用いたケアシェルバック養殖やそれ以外に付随するさまざまな利点についての検討を, 現場での生産物をもとに実施した。本研究によって, ケアシェルバックがアサリの定着性に優れており, 周囲の底質がアサリの着底に優れていない場所においても効果を発することから, ケアシェルバックのみを用いた養殖が可能である事が分かった。また, ケアシェルバックの敷設によって生息環境を容易に増設することが可能であり, 海浜域における海産動物種の多様性を高めることに効果があることが分かった。